

教養教育における 「学習に対する主体性」 実現の条件

岐阜大学副学長（教育・学生支援担当）

益子典文

20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)



自己紹介

- 1986年 筑波大学・第三学群・情報学類卒業
- 1988年 筑波大学大学院・教育研究科教科教育専攻修了
- 1988年 鳴門教育大学学校教育学部
- 2003年 岐阜大学総合情報メディアセンター・教育学研究科
・教育学研究科カリキュラム開発専攻（社会人対象夜間遠隔大学院）
- 2024年 岐阜大学副学長（教育・学生支援・地域連携（副））

- ・ 教育工学，教師教育（教育技術）
- ・ フィールドは初等中等教育

20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)



教育学研究科・夜間遠隔大学院



大学講義室（少人数）



自宅（石川県金沢市）



大学講義室（中間発表会の様子：20191217）

- ・ 大学院設置基準第14条 教育方法の特例
 - ・ 「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」
- ・ 2002年度開始（当時カリキュラム開発専攻）
- ・ 2019年よりZoom運用開始
- ・ 入学者139名中社会人102名（2019年度まで）



学習に対する主体性

20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)



学習の作業的定義

バウアー・ヒルガード「学習の理論」原著第5版、倍風館

- 学習とは、主体が**ある状況を繰り返し経験**することによってもたらされたその状況に対する主体の行動、または行動ポテンシャルにおける変化を指す。
- ただし、その行動の変化が主体の生得的反応傾向、成熟、または一時的状態（疲労、酔い、動因など）によって説明できないようなものであることを前提とする。

自己調整学習の循環モデル

汎用的能力としての側面

- **予見段階**
 - ・ 学習前に、秩序ある階層的な目標設定や方略の計画などに加え、自己効力感（肯定的な見通し）をもつ
 - ・ × 漠然とした見通し
- **遂行段階**
 - ・ 学習中に、自身に対するメタ認知的モニタリング（自己評価・学習方略改善）を行い、自身をコントロールする
 - ・ × 気に入った対象選択や競争心、計画性のない試行錯誤
- **自己内省段階**
 - ・ 学習後に、原因帰属（課題ができた理由）や自己評価により学習を振り返り、次の学習に適応する
 - ・ × 自己評価避ける、他者とのできた／できなかった比較

学習に対する主体性

- 高等教育の在り方の転換
 - ・ 個々の教員の教育手法や研究を中心にシステムが構築されるのではなく、**学修者の「主体的な学び」の質を高めるシステム**を構築していくためには、（略）学内外の資源を共有化し、連携を進め、学修者にとっての高等教育機関としての在り方に転換していく必要がある。
 - ・ 中央教育審議会（2018）2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）

関連概念

- 主体的に学習に取り組む態度（学習指導要領）
- 自己調整学習（self-regulated learning）
- 自律学習（self-directed learning）

OECD生徒の学習到達度調査の結果から

（PISA: Programme for International Student Assessment）

- OECD（経済協力開発機構），3年毎
- 義務教育最終年度の学習者を対象
 - ・ 読解・数学・科学リテラシー（生きる力）を測定
- 第1回 2000年，12カ国
- 【PISA2022】※**今年度（2026年度）の大学2年生**
 - ・ 81か国・地域から約69万人（日本：高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校の1年生183校，約6,000人）
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、2021年調査を2022年に延期
 - ・ 日本は数学的リテラシー（平均536点：OECD加盟国中1位），科学的リテラシー（平均536点：同1位），読解力（平均516点：同2位）とトップレベルの成績。
 - ・ 2018年調査からOECDの平均得点は大きく低下した。一方、日本は高水準で安定している。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響～2018-2022年における「レジリエントな」国・地域～

「レジリエントな」国・地域

○OECDは、①数学の成績、②教育におけるウェルビーイング、③教育の公平性の三つの側面について、2018年調査から2022年調査にかけての変化に着目し、その結果から「レジリエントな」国・地域を分析。

○PISA2022に参加した81の国・地域のうち、この3つの側面全てにおいて安定又は向上が見られた国・地域は、日本、韓国、リトアニア、台湾のみであり、OECDは、これらの国・地域を「レジリエントな」国・地域としている。

「レジリエントな」国・地域の三つの側面

①数学の成績

（数学的リテラシーの得点の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）
2018年から2022年にかけて、生徒の数学的リテラシーの平均得点が安定又は向上しており、かつ2022年はOECD平均以上であること。

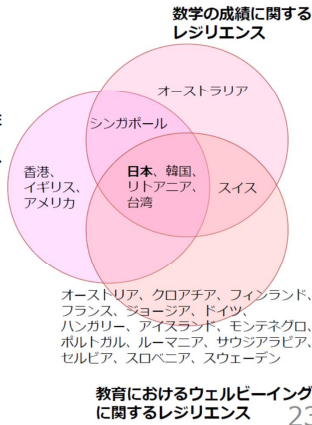
②教育におけるウェルビーイング

（学校への所属感の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）
2018年から2022年にかけて、「生徒の学校への所属感」指標が安定又は向上しており、かつ2022年はOECD平均以上であること。

③教育の公平性（公平性の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）

以下の3条件を満たすこと。

- 2022年の生徒の「社会経済文化的背景」（ESCS）による数学得点のばらつき（分散）の説明率がOECD平均に対して、有意に低い／有意差がないこと（教育の社会経済的公正性 Socio-economic fairness）
- 2022年の数学的リテラシーの平均得点がOECD平均以上であること
- 社会経済文化的背景の低い生徒（ESCS指標値の最下位25%群）と高い生徒（ESCS指標値の最上位25%群）のいずれも2018年から2022年にかけて数学的リテラシーの平均得点が安定又は向上していること（教育の社会経済的平等性 Socio-economic parity）



国立教育政策研究所 (2023) OECD 生徒の学習到達度調査PISA2022のポイント、https://www.mext.go.jp/content/20240312-mxt_kokusai-000020406_3.pdf
20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)



https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf

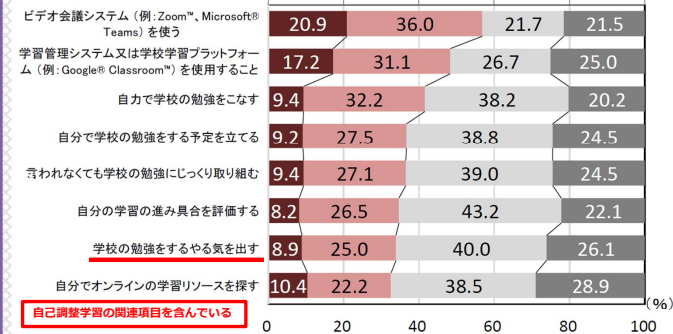
自律学習を行う自信

○学校が再び休校になった場合に自律学習を行う自信があるか、という質問に対する回答で、自信がないと回答した生徒が日本は非常に多かった。

生徒質問調査 問61 自律学習と自己効力感（日本）

「今後、あなたの学校が再び休校した場合、以下のことを行う自信はどれほどありますか。」

■ とても自信がある ■ 自信がある ■ あまり自信がない ■ 全然自信がない



○感染症の流行・災害の発生といった非常時のみならず、変化の激しい社会を生きる子供達が普段から自律的に学んでいくことができるような経験を重ねることは重要であり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進により、自ら思考し、判断・表現する機会を充実したり、児童生徒一人一人の学習進度や興味・関心等に応じて教材や学ば方法等を選択できるような環境を整えたりするなど、自立した学習者の育成に向けた取組を進めていく必要がある。

「自律学習と自己効力感」指標
左の8項目の回答割合から指標値を算出。

OECD平均	0.01
34位 日本	-0.68

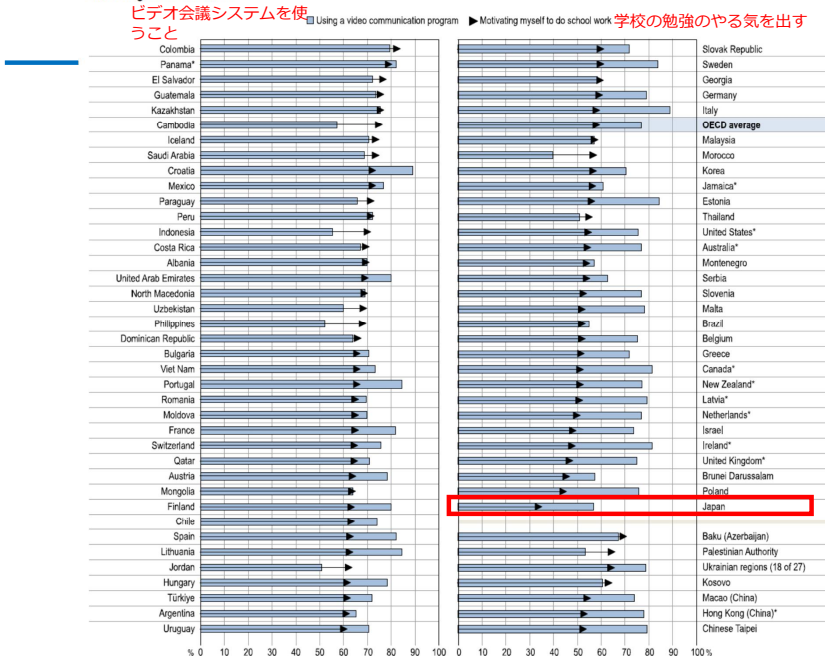
※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、自律学習に対する自己効力感（自信）が高いことを意味している。

20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)



Figure II.2.5. Students' confidence in self-directed learning もし学校が再び登校禁止となった場合に、次のことについて、自信がある／とても自信がある、を選択した生徒の割合
Percentage of students who reported feeling confident/very confident in taking the following actions if their school building closes again in the future

11



Note: Only countries and economies with available data are shown in this figure.
Items are ranked in descending order of the percentage of students who reported feeling confident or very confident in motivating themselves to do school work.
Source: OECD, PISA 2022 Database, Annex B1, Chapter 2.



実践事例から見る主体性を育てる・育つ条件

20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)



初等中等教育段階

「主体的に学習に取り組む態度」の評価 自己評価と自己調整

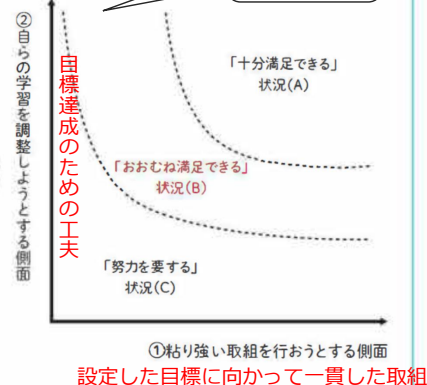
「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行う側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。

ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められる。

国立教育政策研究所 (2019) 学習評価の在り方ハンドブック (高等学校編) ,
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-02.pdf
20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)



①粘り強い取組を行う側面
設定した目標に向かって一貫した取組

調整・工夫のために自己評価が必要

主体的に学習に取り組む態度の自己評価

(岐阜県教育委員会・教育データ活用推進事業：高山市立丹生川小学校)

- 既習事項の達成度含むテスト (レディネステスト)
- 単元終了時の「単元まとめ問題テスト」

児童自身による
単元の目標設定
弱点克服

単元開始時

- ①既習事項の達成度を含むテスト実施
- ②児童と教師による分析 (岐阜県全体と自分のクラスの比較) (注意すべき点を付箋紙に書き出し)
- ③クラス全体で学習目標をまとめ共有

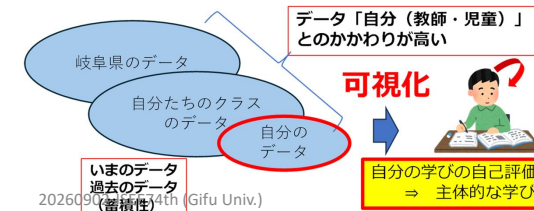


単元終了時

- ①単元まとめ問題テスト実施
- ②児童による分析 (岐阜県全体と自分の得点比較) (注意すべき点を書き出し)
- ③自分に合った課題を自分で作成し遂行



設定した学習目標を常に参照し
調整しながら主体的に学習



20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)



岐阜大学のディプロマ・ポリシー

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

岐阜大学は、全ての学部が1つのキャンパスにある特徴を教育・研究の面に活かし、高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育、教育の基盤としての質の高い研究、地域に根ざした国際化を展開しています。岐阜大学では「学び、究め、貢献する」人材を社会に送り出すことを理念・目標に掲げ、以下の基盤的能力及び専門的能力を総合的に身に付けた人に学士の学位を授与します。

(岐阜大学公式HP (https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/policy_f.html) より抜粋)

科目として 育成される 基盤的能力	豊かな人間性を支える 基盤的能力	科目として 育成される 専門的能力	専門職業人として必要な 専門的能力
- 考える力 (総合的判断力) - 伝える力 (コミュニケーション力) - 進める力 (自立的行動力)	- 考える力 (総合的判断力) - 伝える力 (コミュニケーション力) - 進める力 (自立的行動力)	- 社会に貢献できる専門知識・技能 - 深い見識・専門的視野・批判的見方・考え方 - 広い教養・高い倫理観・社会責任	- 社会に貢献できる専門知識・技能 - 深い見識・専門的視野・批判的見方・考え方 - 広い教養・高い倫理観・社会責任

基盤的能力は専門的能力の基礎となる位置づけ



主として教養教育で育成する 基盤的能力「進・伝・考」

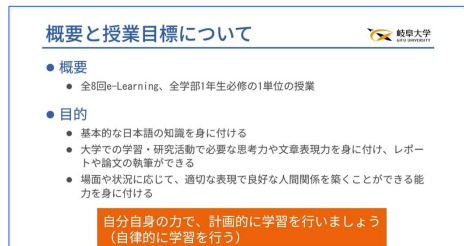
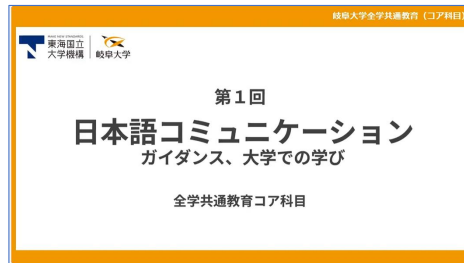
基盤的能力

この表は岐阜大学において育成すべき「基盤的能力」の3つの力、9つの要素の内容と学部あるいは大学院レベルでの達成目標 (水準) を表しています。

3つの力	9つの要素	内容	水準 (達成目標) 学部レベル	水準 (達成目標) 大学院レベル
進める力 自立的行動力	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	課題解決のプロセスを理解した上で、課題の解決に向けた計画が立案できる	課題解決のプロセスを理解した上で、課題の解決に向けて立案した計画に基づいて行動できる
	実行力	目的を設定し他者に働きかけ協同して、確実に実行する力	目的を設定し他者と協同して実行することができる	設定した目的にわたって他者と協同して、一緒に達成にむけた行動を確実に実行することができる
	管理力	目的に向かって自身やチーム等の行動や活動をコントロールする力	目的に向かってチームの行動や活動をコントロールできる	目的に向かって自身やチーム両方の行動や活動をコントロールすることができる
伝える力 コミュニケーション力	傾聴力	相手の意見を理解しながら丁寧に聞く力	相手の意見を理解しながら聞くことができる	相手の意見を理解しながら丁寧に聞くことができる
	発信力	自分の意見を、事例や客観的なデータを用いて相手の状況を理解しながらわかりやすく伝える力	客観的なデータを用いて自分の意見をわかりやすく伝えることができる	自分の意見を、事例や客観的なデータを用いて相手の状況を理解しながらわかりやすく伝えることができる
	状況把握力	自分と周囲の関係性を理解し、集団や社会、会議等の場で行われている文脈を把握する力	自分と周囲の関係性を理解し、その場の状況が把握できる	自分と周囲の関係性を理解し、集団や社会、会議等の場で行われている文脈を把握し、その状況が説明できる
考える力 総合的判断力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにし準備する力	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	現状を分析して明らかにした目的や課題の解決に取り組む準備ができる
	創造的思考力	複数の考えを組み合わせて、従来の発想を脱却し、新しい価値を生み出す力	複数の考えを組み合わせて、従来の発想を脱却し、新しい発想を生み出すことができる	様々な分野に関して複数の考えを組み合わせ、新しい発想や価値を創造することができる
	論理的思考力	物事を分析・統合・比較・対照し、相違を明らかにし、筋道を分りやすくする力	物事の分析・統合・比較・対照し、相違を明らかにし、筋道を分りやすく説明することができる	物事を分析・統合・比較・対照し、相違を明らかにし、筋道を分りやすく説明することができる



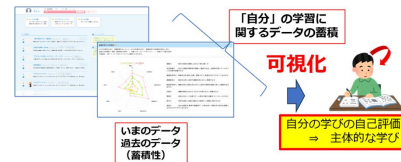
岐阜大学の取り組み オンデマンド学習による必修講義設定



清島絵利子准教授担当科目「日本語コミュニケーション」第1回

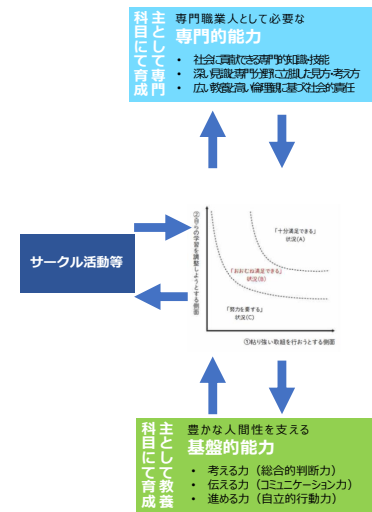
20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)

- 令和9年度開始予定
- 教養教育コア科目
 - ・ 重要な内容10科目
 - ・ 哲学・思想入門, データ科学基礎, 文化と言語, 健康教養・・・
 - ・ コンテンツ+CBT
- 自律的（計画的）学習過程支援



まとめ

- 学習に対する主体性
 - ・ 汎用的能力と位置付けられる
 - ・ 自律学習は国際的に低い水準
- 初等中等教育・教養教育での育成
 - ・ 主体的に学習に取り組む態度
- 学習における主体性実現の条件
 - ・ 自己評価能活動の活性化
 - ・ 課題取組⇒
 - ・ 「主体的に学習に取り組む態度」フィードバック（可視化含む）⇒
 - ・ 基盤的能力・専門的能力「意識化」⇒
 - ・ 学習における主体性の習得



20260902 JSEE74th (Gifu Univ.)